科目ナンバリング	U-LAS00 10003 LJ34				
授業科目名<英訳>	倫理学Ⅰ Ethics I		担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	佐藤　義之
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金4	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

われわれは日々多大なエネルギーを費やして道徳を守っているが、そもそも道徳を守る必要などあるのだろうか。この講義ではこの問いを導きに道徳を考え直してみたい。前期（「倫理学Ⅰ」）では、この問いの検討の準備作業として、我々の日常的道徳観の整理からはじめる。そののち、この問いへの代表的な解答例を紹介、検討する。（佐藤担当後期「倫理学II」と内容上一連の授業）

[到達目標]

上記の倫理学の根本的問題について考えるために、まずカントの倫理思想を詳細に検討し、われわれの日常的倫理観を整理して理解し直す。その上でそれと対立する立場に触れることで、日常的な倫理観を見直す足がかりをえる。

[授業計画と内容]

（１）授業の方法、成績算定法等に関するガイダンス（第１回）
（２）どうして道徳を守らねばならないのか――問題提起――（第１～３回）
（３）われわれの道徳観の整理から――カントを導きに――
　感性と理性（第４回）
　義務（第５回）
　道徳的命令の形式と基準（第６回）
　道徳と目的（第７回）
　カントの検討…行為の結果／感性と道徳（第８～９回）
（４）私利のための道徳（ホッブズ）――ひとつの解答とその検討――
　力学的人間観（第10回）
　社会契約説（第11回）
　権利の全面的委譲は必要か（第12回）
（５）前期まとめ：結果論的倫理学と義務論的倫理学（第13～14回）
フィードバック：詳細は別途連絡する（第15回）。

[履修要件]

「どうして道徳を守らねばならないのか」という、この授業で提起した問題をさらに深めて理解したいひとには、後期「倫理学II」（佐藤担当）の連続した履修を推奨する。

[成績評価の方法・観点]

授業時に随時数回、事前の予告なく実施する小テストによる。

[教科書]

使用しない

倫理学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

倫理学Ⅰ(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

ノート参照可の小テストを授業時に随時実施するので、それに備えて授業ノートを整理し、復習しておくことが望ましい。

[その他（オフィスアワー等）]

受講希望者多数の場合は、教室収容人数に応じて抽選により受講者を制限する。（※なお、この授業の単位修得者が引き続き今年度後期「倫理学II」（佐藤担当）の受講を希望する場合は、優先的に受講を許可する予定である）

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部